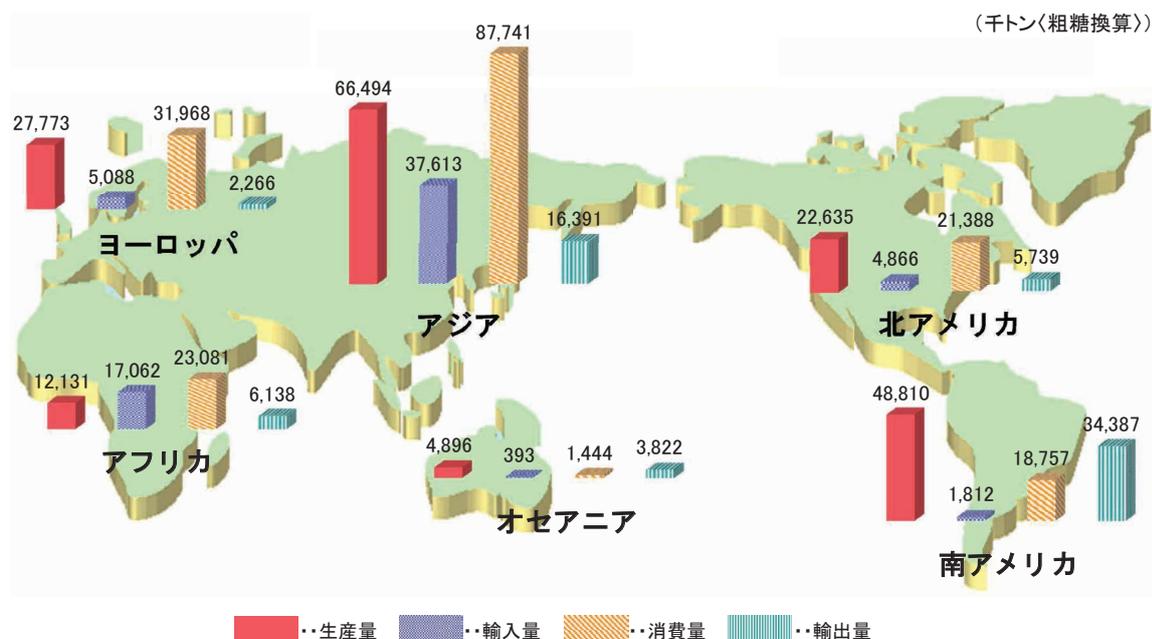


## 砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

### 1. 世界の砂糖需給（2021年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2021」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,628	65,934	180,718	67,687	81,466	45.1
2018/19	81,466	186,584	61,355	183,607	61,827	83,972	45.7
2019/20	83,972	181,926	69,315	181,419	71,216	82,578	45.5
2020/21 (2020年12月予測)	83,524	184,096	65,695	182,990	69,028	81,297	44.4
2020/21 (2021年3月予測)	82,578	182,739	66,833	184,380	68,743	79,028	42.9

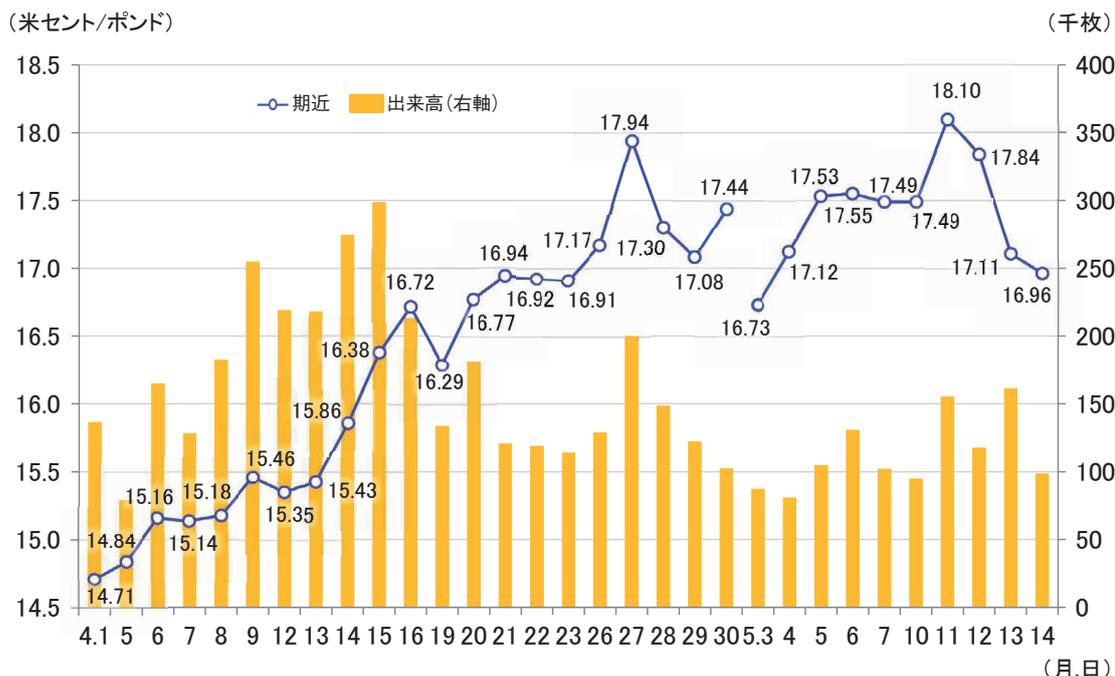
資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2021」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。  
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（4/1～5/14）

～5月限は17セント台で納会、5月中旬には2カ月半ぶりに18セント台へ乗せる～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：4月は期近5月限、5月は期近7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年4月の推移を見ると（5月限）、1日は、前月からの流れが継続し、1ポンド当たり14.71セント<sup>（注1）</sup>と下落したが、6日は、原油価格の上昇とリアル高<sup>（注2、3）</sup>を受けて同15.16セントまで上昇した。9日は、ブラジルにおける1月～3月のエタノール輸出量が過去5年間で最多を記録したとの報道を受け、引き続きエタノールの増産が継続するとの思惑から、同15.46セントまで値を上げた。12日は同15.35セントと値を下げたが、13日以降は、原油価格の上昇や、ブラジルやフランスといった主要国で天候不順などを背景に砂糖生産量が減少するとの予測から相場が急上昇し、16日は同16.72セントとなった。19日は、新型コロナウイルス感染症（COVID-

19）感染者数の全世界での増加を受けて、砂糖需要が今後落ち込むと懸念されたことで同16.29セントまで下落した。20日以降はブラジルの乾燥気候がサトウキビ生産に悪影響を及ぼすとの見方などから再び上昇が続き、27日は同17.94セントまで値を上げた。29日は、同17.08セントまで値を下げたものの、5月限の最終日である30日は、同17.44セントまで回復し、上昇基調を維持した形で納会した。

7月限に変わった5月3日は、インドの砂糖生産実績が前年同期より増加したことで、同16.73セントを付けた。4日以降は、ブラジルの乾燥気候への懸念やブラジルリアルが米ドルに対して上昇したことなどから堅調に推移し、6日は同17.55セントま

で値を上げた。11日は、ブラジル産砂糖の減少予測や同国におけるエタノール価格が高値で推移していることなどにより、同18.10セントと2カ月半ぶりに18セント台へ乗せたものの、12日以降は原油価格の下落などに伴い値を下げ、14日は同16.96セントを付けた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要上昇により、その原料作物(サ

トウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2021年5月時点予測)

#### ブラジル

##### 2021/22年度 (4月～翌3月) の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：871万ha (前年度同)

生産量：6億500万トン (前年度比8.0%減)

###### 【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：4118万トン (同7.7%減)

輸出品量：2985万トン (同12.2%減)

#### 2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度、輸出品量はかなり大きく減少する見込み

LMC International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) による2021年5月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2021/22年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、871万ヘクタール (前年度同) と同程度で推移すると見込まれる (表2)。サトウキビ生産量は、生育期間における降雨量が少なく、単収が減少することで、6億500万トン (前年度比8.0%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖生産量は、国際価格の上昇や新型コロナ

ウイルス感染症 (COVID-19) によるバイオエタノール需要の不透明感などを背景に、前年度に引き続き多くの製糖業者が砂糖の生産割合を高めると予想されるものの、原料の減産や、1トン当たりの平均回収糖分 (ATR) のわずかな減少を受けて、4118万トン (粗糖換算 (以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同7.7%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出品量も、砂糖の減産を背景に、2985万トン (同12.2%減) とかなり大きく減少すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

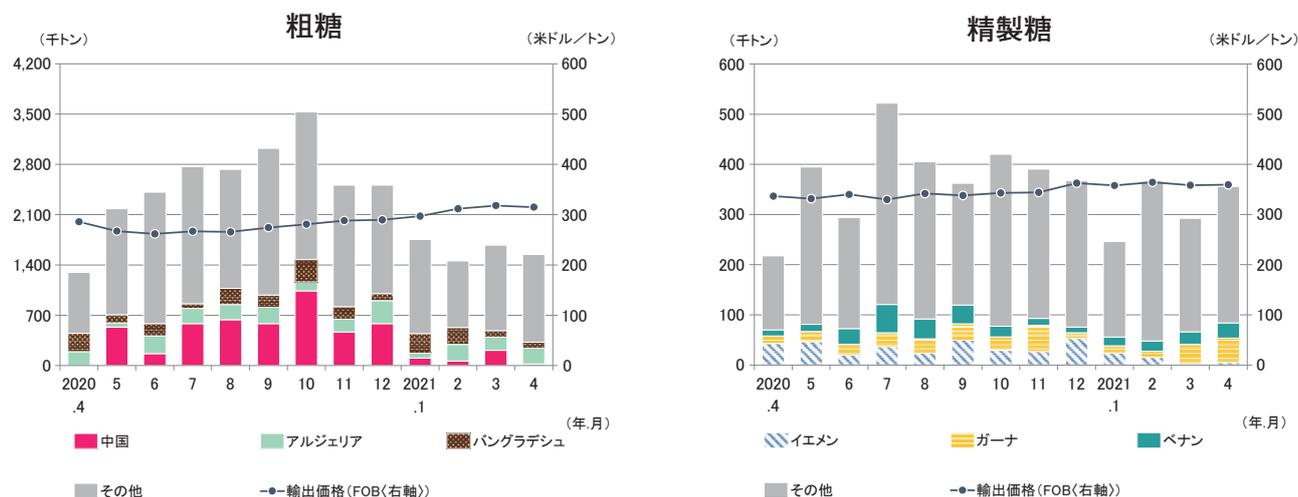
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	2021/22 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,707	8,604	8,705	▲ 0.0%	
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,462	630,000	605,000	▲ 8.0%	
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,606	41,890	▲ 7.7%	
	輸入量	3	2	3	3	0.0%	
	消費量	10,635	10,812	11,321	11,325	0.0%	
	輸出量	21,017	20,321	33,986	30,560	▲ 12.2%	
	期末在庫量	239	913	214	493	222	3.7%
	期末在庫率	0.8	2.9	0.5	1.2	0.5	0.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## インド

### 2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：489万ha(前年度比5.3%増)

生産量：4億249万トン(同8.9%増)

#### 【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3300万トン(同12.1%増)

輸出量：768万トン(同7.3%減)

2020/21年度は増産するも、輸出促進政策の発表の遅れなどを受け、輸出量はかなりの程度減少する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に

見舞われた前年度からの反動で、489万ヘクタール(前年度比5.3%増)とやや増加すると見込まれる(表3)。ウツタル・プラデーシュ州で赤腐病(red rot)<sup>(注1)</sup>の被害が確認されているものの、マハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン

期（6～9月）における降雨が潤沢であったことから、サトウキビ生産量は4億249万トン（同8.9%増）とかなりの程度、砂糖生産量は3300万トン（同12.1%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、COVID-19による物流の混乱は解消しつつあることで、足元の輸出は復調傾向にあるものの、輸出促進政策の政府発表の遅延<sup>(注2)</sup>も影響するなどして、結果として前年度ほどの輸出水準には届かず、768万トン（同7.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

(注1) 真菌の感染によって引き起こされる病気で、茎の内部が腐り、赤色に変色する。サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を与えるとされている。

(注2) インド政府の2020/21年度における砂糖の輸出政策の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号のインドの項「ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請」([https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002327.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002327.html))を参照されたい。

## 砂糖200万トン相当の圧搾汁や糖みつ、エタノールの原料となる見込み

5月4日付の現地報道によると、インド国内の製糖工場と公営石油販売会社（OMC）との間で

2020/21年度（12月～翌11月）分の燃料用エタノール約300万キロリットルの供給契約が締結されている中、4月19日時点で前年度供給量の約66%に当たる約118万キロリットルがOMCに供給された。インド製糖協会によると、すでに供給されたエタノールの約77%は、サトウキビの圧搾汁または糖みつ（Bモラセス）を原料としており、圧搾汁や糖みつの一部がエタノール生産に仕向けられることで、過剰傾向にある同国内の砂糖生産量約200万トン相当が削減できると見込まれている<sup>(注)</sup>。現在、同国内におけるガソリンへのエタノール混合率は平均で7.36%に達し、製糖工場が多いウッタル・プラデーシュ州やマハラシュトラ州、また、首都デリーを含む11の州ではこの平均値より高い10%近くまで上昇している。

(注) 砂糖の製造工程では、サトウキビの圧搾汁を煮詰めて結晶化させ、これを遠心分離機で脱水し、砂糖と糖みつを分離する。このとき得られる糖みつをAモラセスと呼び、これを再度煮詰め、脱水する作業を繰り返して取り出した糖みつをBモラセスと呼ぶ。インドでは2018年7月、砂糖の余剰在庫削減などを目的に、圧搾汁およびBモラセスを直接バイオエタノール生産に仕向けることが認められた。

表3 インドの砂糖需給の推移

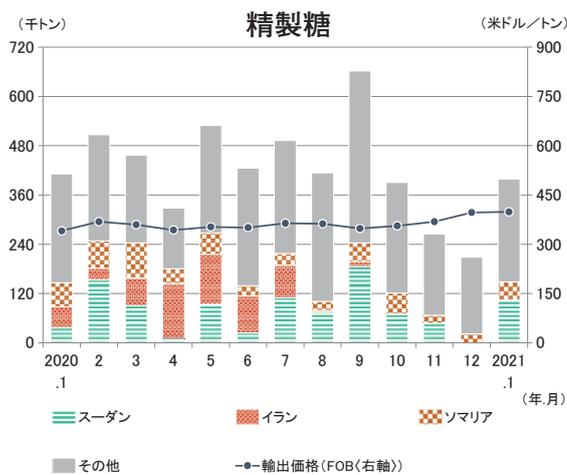
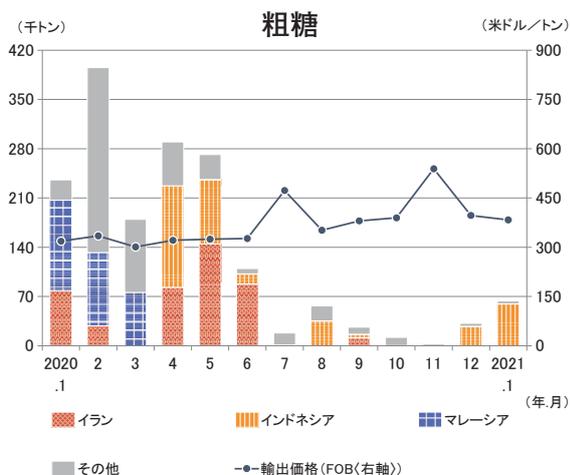
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	2020/21 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,642	4,831	4,888	5.3%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	369,637	394,633	402,491	8.9%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	32,563	32,995	12.1%
	輸入量	2,308	664	1,687	1,728	1,188	▲29.6%
	消費量	27,421	27,540	27,108	27,864	27,216	0.4%
	輸出量	2,360	5,483	8,288	8,224	7,683	▲7.3%
	期末在庫量	11,523	14,962	10,690	8,893	9,973	▲6.7%
	期末在庫率	38.7	45.3	30.2	24.6	28.6	1.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比1.6%減）

生産量：7360万トン（同3.5%減）

【てん菜】

収穫面積：23万ha（同8.8%増）

生産量：1238万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1148万トン（同1.9%増）

輸入量：659万トン（同1.4%減）

2020/21年度の輸入量は、わずかに減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、雲南省では面積の増加が見られるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受けて、116万ヘクタール（前年度比1.6%減）とわずかに減少し、サトウキビ生産量も、7360万トン（同3.5%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加に伴い、1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1148万トン（同1.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、生産量の増加や砂糖の国際価格の上昇による輸入価格の上昇が見込まれる<sup>(注)</sup>ことを受けて、659万トン（同1.4%減）とわずかに減少すると見込まれる。

(注) 砂糖の国際価格が高水準で推移していることで、関税割当枠外での輸入価格が国内価格を上回る状況にある。中国では、輸入糖について関税割当を設けており、割当枠外の関税は50%となっている。詳細は2020年6月12日付海外情報「関税割当枠外の砂糖への追加関税を撤廃(中国)」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_002725.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002725.html))を参照されたい。

砂糖消費および輸入量、今後10年間も高水準で推移の見込み

中国農業農村部は4月20日に開催された中国農

業展望大会において、今後10年間の農畜産物需給を見通した「中国農業展望報告（2021-2030）」を発表した。このうち、砂糖の需給について、同国の砂糖消費量は今後も着実に増加し、輸入も比較的高い水準で維持されると予測した。

同報告によると、同国の砂糖生産量は、甘味資源作物の作付面積と収量の微増により2029/30年度（10月～翌9月）には2020/21年度比で7.2%増の1135万トンに達すると予測されている<sup>(注1)</sup>。また、砂糖消費量も、代替甘味料の普及や健康志向の高まり、出生率の低下や都市化の進展などの影響を

受けるものの年平均0.9%の増加が見込まれ、同年度には1644万トンに達すると予測されている。砂糖輸入量については、国内生産量を上回る需要が続くことに加え、輸入糖は国内産糖より安価であることから、年平均5.8%の増加が見込まれ、同年度には552万トンに達すると予測されている<sup>(注2)</sup>。

(注1) 中国農業農村部が5月に発表した短期的需給見通しによると、2020/21年度の砂糖生産量は1059万トンと予測されている。

(注2) 同見通しによると、2020/21年度の砂糖輸入量は450万トンと予測されている。

表4 中国の砂糖需給の推移

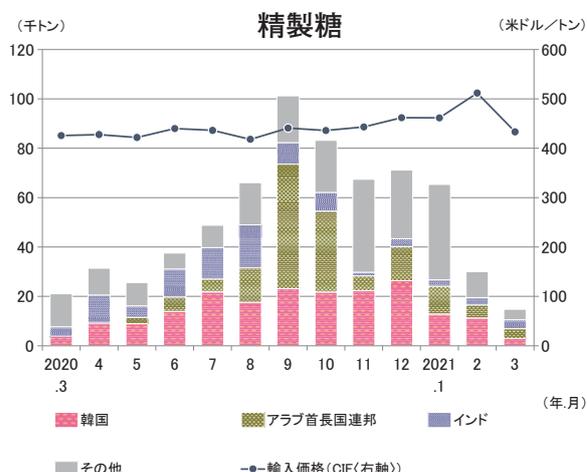
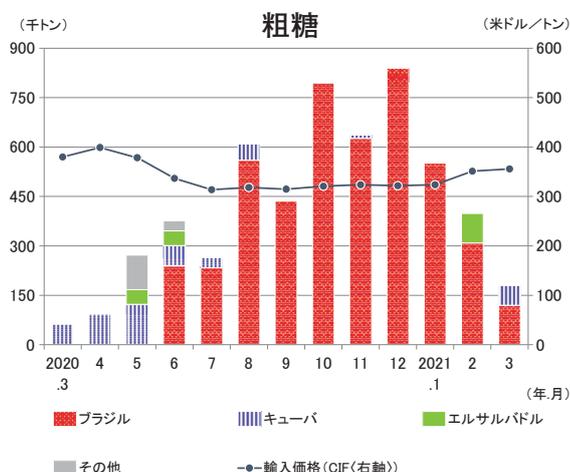
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	2020/21 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,157	1,157	▲ 1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	76,231	73,600	73,600	▲ 3.5%	
てん菜収穫面積	186	243	213	231	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	12,380	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,239	11,476	1.9%
	輸入量	6,033	5,053	6,685	7,212	6,594	▲ 1.4%
	消費量	16,414	16,522	16,414	16,849	16,849	2.6%
	輸出量	182	210	192	201	170	▲ 11.5%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,571	13,973	13,623	8.4%
	期末在庫率	67.9	67.1	75.7	82.0	80.1	4.3ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

## E U

### 2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：147万ha（前年度比2.9%減）

生産量：9911万トン（同9.9%減）

#### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1516万トン（同10.6%減）

輸出量：131万トン（同9.0%減）

### 2020/21年度の輸出量は、かなりの程度減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は147万ヘクタール（前年度比2.9%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、EU最大のてん菜生産国であるフランスで感染が広がる萎黄病<sup>いおう</sup>（注）の被害を受けて、9911万トン（同9.9%減）とかなりの程度減少すると見込ま

れる。てん菜生産量の落ち込みにより、砂糖生産量は1516万トン（同10.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖生産量の減少によって輸出余力が低下し、131万トン（同9.0%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

（注）アブラムシによって媒介されるウイルス性の病気で、葉が黄色く変色し、てん菜の単収や砂糖の回収率の低下を引き起こすとされている。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

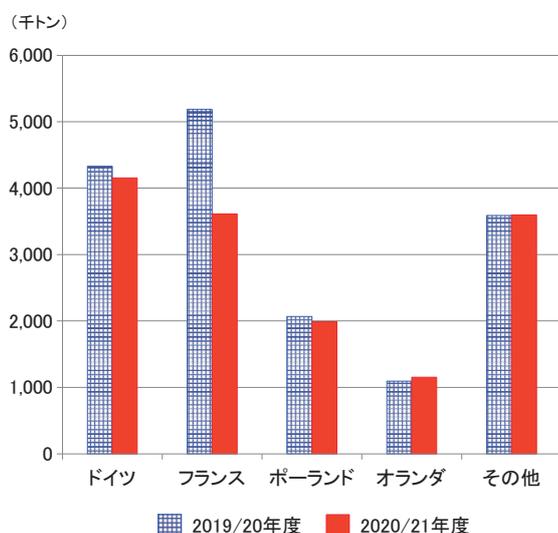
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	2020/21 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,474	1,474	▲ 2.9%	
てん菜生産量	130,930	104,224	110,038	99,134	99,114	▲ 9.9%	
砂糖	生産量	20,353	17,083	16,954	15,151	15,155	▲ 10.6%
	輸入量	1,566	2,349	2,230	1,959	1,850	▲ 17.0%
	消費量	17,451	17,546	17,110	16,830	16,841	▲ 1.6%
	輸出量	4,270	2,391	1,436	1,252	1,307	▲ 9.0%
	期末在庫量	2,212	1,709	2,346	1,385	1,204	▲ 48.7%
	期末在庫率	10.2	8.6	12.7	7.7	6.6	6.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

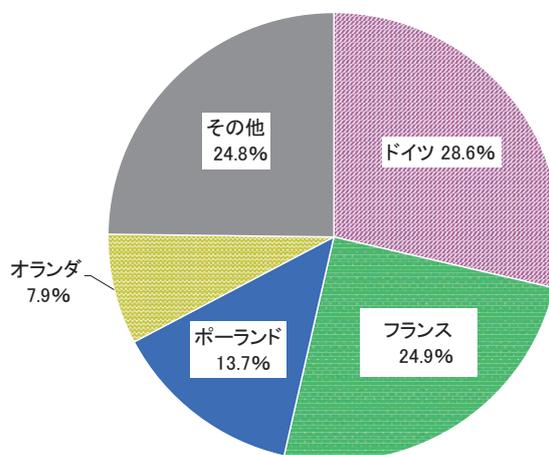
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年4月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会  
注1：精製糖換算。  
注2：2020/21年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会  
注：2020/21年度の予測値に基づく割合。

## 4. 日本の主要輸入先国の動向 (2021年5月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

本稿中の為替レートは2021年4月末日TTS相場の値であり、1豪ドル=87（86.75）円である。

### 豪州

#### 2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.5%減）  
生産量：2950万トン（同5.2%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：418万トン（同4.6%減）  
輸出量：314万トン（同6.8%減）

### 2021/22年度の砂糖生産量は、やや減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.5%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、ここ数カ月のラニーニャ現象による

豪雨などの不安定な気候が生育に悪影響を及ぼし、2950万トン（同5.2%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、生育不良などによるサトウキビの品質低下を受けて418万トン（同4.6%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、314万トン（同

6.8%減)と、依然減少傾向が続くと見込まれている。

## サトウキビ生産者団体、コスト削減のための電気料金削減ソフトを開発

クイーンズランド州のサトウキビ生産者団体であるCANEGROWERSは5月4日、個々のかんがい設備の状況に最適な電気料金プランを選択できるソフトを開発したと発表した。同州の電気料金は州競争局(QCA)が管理し、QCAよりさまざまな料金プランが提供されているが、同生産者団体によると、同州のサトウキビ生産の6割でかんがい設備が使用

される中、生産コストに占める電気料金の割合は高くなっているとしている。サトウキビ生産農家が支払う電気料金は、年平均で2万2000~2万8000豪ドル(約191万~244万円)とされ、大規模農家では5万豪ドル(約435万円)を超えることもあるという。2021/22年度(7月~翌6月)の電気料金は、年度開始直前の6月上旬にQCAから正式発表されるが、同生産者団体の代表は、すでに公表されているQCAの料金案を基に、当該ソフトを利用することで、農家が前もって生産コスト削減に向けた料金プランを検討できると述べている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	2021/22 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	379	364	361	355	355	▲1.5%	
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,123	30,925	29,500	▲5.2%	
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,384	4,384	▲4.6%	
	輸入量	18	16	20	18	▲10.0%	
	消費量	1,057	1,056	1,036	1,062	2.5%	
	輸出量	3,562	3,449	3,364	3,336	▲6.8%	
	期末在庫量	958	763	767	771	768	0.2%
	期末在庫率	20.7	16.9	17.4	17.5	18.3	0.9ポイント増

資料: LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2021]

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2020/21年度(10月~翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積: 139万ha (前年度比18.8%減)

生産量: 6666万トン (同11.0%減)

#### 【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量: 784万トン (同11.0%減)

輸出量: 480万トン (同41.2%減)

### 2020/21年度の輸出量は、前年度比4割減の見込み

2020/21年度(10月~翌9月)のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、139万ヘクター

ル(前年度比18.8%減)と大幅に減少すると見込まれる(表7)。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、6666万トン(同11.0%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの品質が向上したものの<sup>(注)</sup>、サトウキビ生産量が落ち込んだことで、

784万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は480万トン（同41.2%減）と大幅に減少すると見込まれる。

（注）タイ政府の焼き畑抑制政策により、焼き畑によるサトウキビ収穫量が減少したため。焼き畑を行うと、サトウキビに含まれるショ糖が分解され、CCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合）が低下する。

表7 タイの砂糖需給の推移

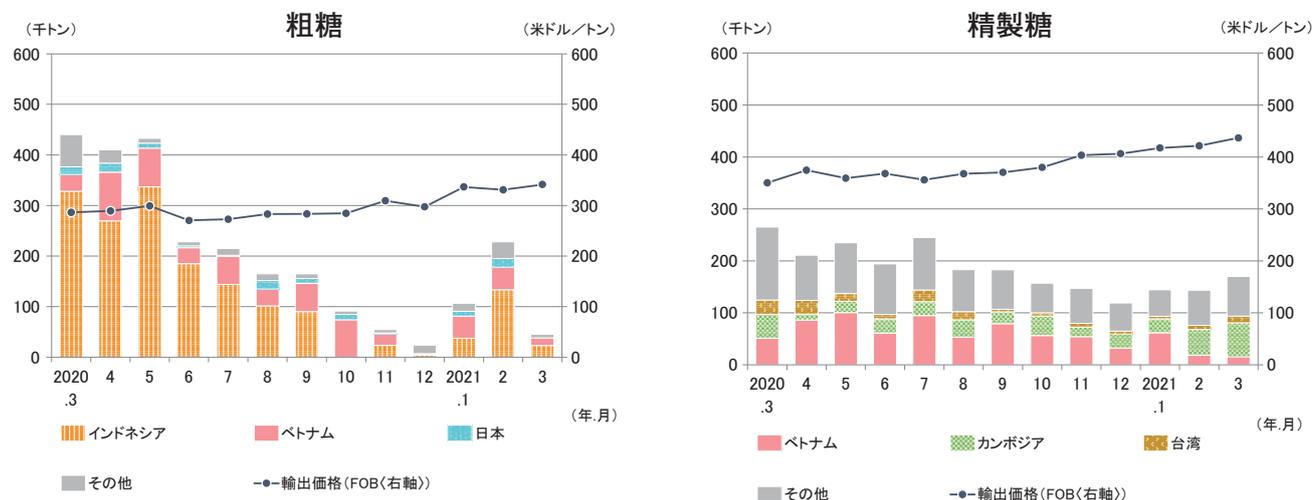
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	2020/21 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,714	1,392	1,392	▲ 18.8%	
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	66,659	66,659	▲ 11.0%	
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,837	7,837	▲ 11.0%
	輸入量	5	4	59	23	23	▲ 61.1%
	消費量	3,434	3,737	3,773	3,700	3,700	▲ 1.9%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	4,780	4,803	▲ 41.2%
	期末在庫量	6,289	7,899	4,830	4,211	4,187	▲ 13.3%
	期末在庫率	47.4	57.0	40.5	49.7	49.2	8.8ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。